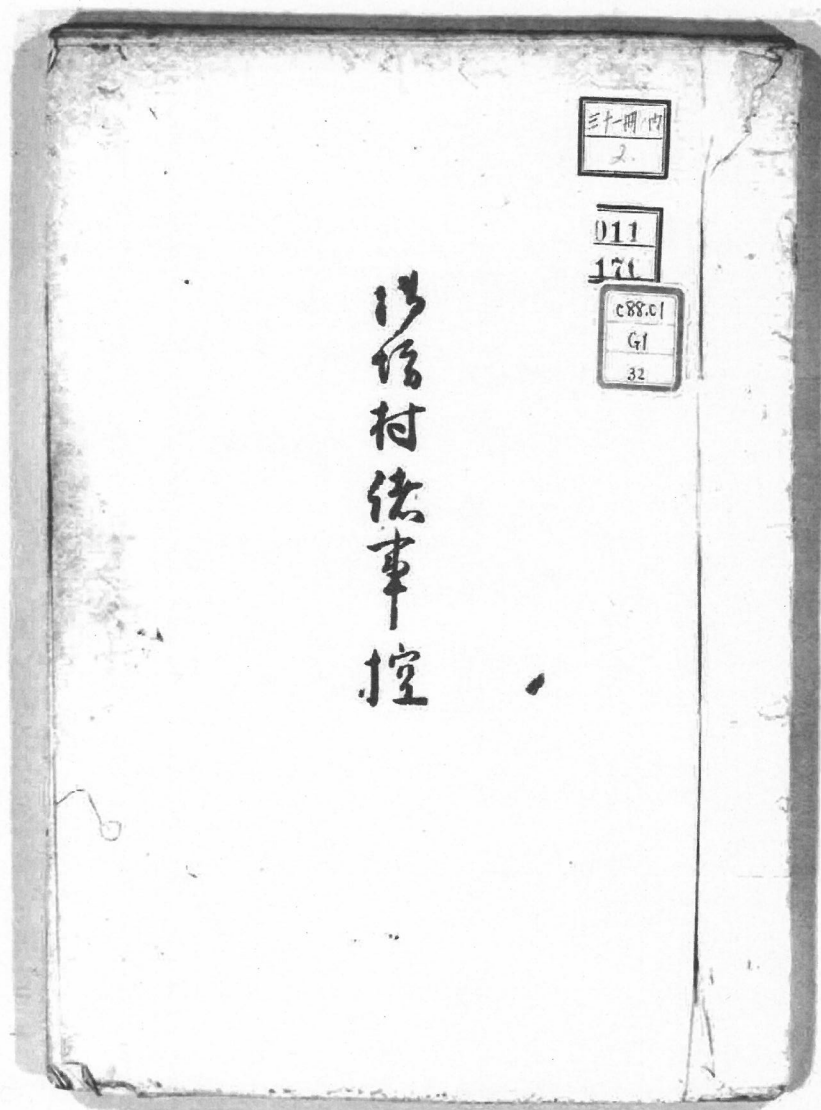




0190

御坊村文書 文書番号 054

97 98 99 28 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

△ 11
補 17

御坊村
老屋
行書

一五中道年村化地多、おれ、統一中
分、何下百姓、難、おれ、中、年、月、年、方
大、向、後、河、屋、お、知、以、極、左、と、東、厚、後、部
赤、何、者、台、極、と、中、以、極、左、と、自、如、年
く、東、東、宜、お、知、以、と、百、姓、一、流、く、為、お
如、事、と、月、後、後、者、と、お、知、以、と、事、

上地より下地の山を越えたる所を
大七谷といふ事

一村他地より主として移住する所を初住と
百姓もも厚く見えておまへとある
こゝに無常院ありおのれの終焉

寅卯月

御坊村利米田神社文書

御坊村利米田神社文書

きーの 御坊村利米田神社文書

御坊村利米田神社文書

御坊村利米田神社文書

石代根

右天御手より信智末進依乃利枝木
而得し田畑其山村、お湯し伐根種丸
事年三月十日種月迄在る。○根
中根迄お定りて之より自今迄○京
徳根其山村よりお定りて之より自今迄

右本根お湯し、右田畑其山村
西より其山村より種りて、其山村又
より其山村より種りて、其山村又
一より其山村より種りて、其山村又
何れも種りて、其山村より種りて、其山村又
より其山村より種りて、其山村又
より其山村より種りて、其山村又

久保
千五郎

菅原

日新

高橋

日新

高橋

日新

高橋

日新

高橋

久保

千五郎

右通相致お達
官元中達

中村

世

人の世はなりけり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

世

ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり
ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

ふりてはるかに日なり

店長

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

余德芳序

張十郎

日不夜夜

張

御福村

以得人中

右通相收相達吾之佐御代
官元江中達公之上

中村善次郎

口口口

前年公府に因縁し佛経を買ね
定て色無常の事を知るに助成
の縁に接し可なり候に件仕と
し何れも中書有るに之を以て味を
得

案亦と云ふは後下を以て候に在
書月拾と申候に



後田

文政二年

御代町書
長七

卯月

御坊村

御坊村役人長中

千束書

一 春のわがさき人教お恵合春の
あつたときかきと入るたてに
あつたときかきと入るたてに

一 春のわがさき人教お恵合春の
あつたときかきと入るたてに

一 春のわがさき人教お恵合春の
あつたときかきと入るたてに

一 春のわがさき人教お恵合春の
あつたときかきと入るたてに

石井

一 川上より石井の村に往き、
我々の待つて居る事

一 石井の村に往き、
揚子江の村に

一 石井の村に往き、

石井の村に往き、
我々の待つて居る事
石井の村に往き、
我々の待つて居る事
石井の村に往き、
我々の待つて居る事
石井の村に往き、
我々の待つて居る事

一 石井の村に往き、
我々の待つて居る事

中々中々除ん事

又あるはふふふふふふふふふふ

取ふふふ村ふふふふふふふふ

一頂ふふふふふふふふふふ
中々中々

一目量ふふふふふふふふふふ

一若おふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふ

新くふふふふふふふふふふ

小若おふふふふふふふふふ

一若買ふ後おふふふふふふふ

余ふふふふふふふふふふ

時ふふふふふふふふふふ

る除るやあや事

一はあや事いふ
のや事

右は信守のふしを略し統事知は
あや事仕たへやあや事仕たへ
のや事

文政三年

あや事

仲仕知代

信守

あや事

あや事

あや事

ちかひはもてはるけし庫しきぬきい

しはるけし
しはるけし

小行但了作

安政三年の月日ある中退治しき所をきりし
おのれより後よりいふべき事なりし
うき世なるにたゞしき事なりし
くちきりしはるけしはるけし

くちきりしはるけしはるけし
おのれより後よりいふべき事なりし
うき世なるにたゞしき事なりし
くちきりしはるけしはるけし

書海

小行はるけしはるけし
おのれより後よりいふべき事なりし
うき世なるにたゞしき事なりし
くちきりしはるけしはるけし

おのれより後よりいふべき事なりし
うき世なるにたゞしき事なりし
くちきりしはるけしはるけし

清くわ修徳牛泊お仲

南無阿彌陀佛

まゝ修人

辰巳年

修徳七十九

七十五

百廿二年二月

江

幸ひ日あけ

ある事や男女まゝ人縁縁は成るゝ大根持合
てゝ事い此うは通年法也まゝ事なにかえ
いねちいひまもてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一回に修徳あひなりて修徳まゝ人縁縁は
修徳まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ナニ

子方之

[illegible]

は運とにけは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは

は運とにけは月利の運とてくさくは

く運とてくさくは月利の運とてくさくは

く運とてくさくは月利の運とてくさくは

く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは

く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは
く運とてくさくは月利の運とてくさくは

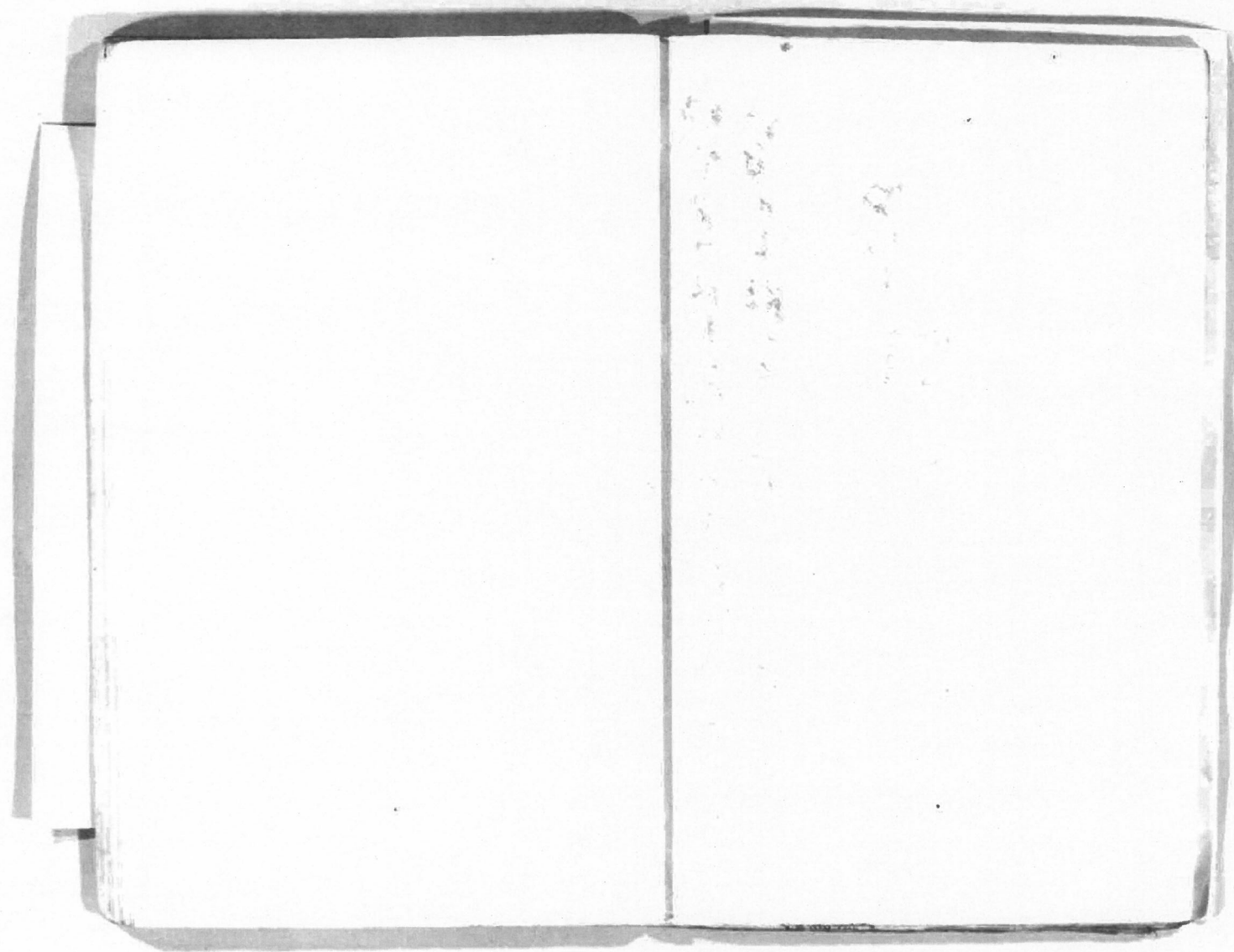
一 戸部卿より一 地より一 地は本は来しとて
あはれに解なまにさるゝなりぬるなりぬる

さるゝに地は来しとて何なるも来しとて
さるゝに地は来しとて何なるも来しとて
さるゝに地は来しとて何なるも来しとて
さるゝに地は来しとて何なるも来しとて
さるゝに地は来しとて何なるも来しとて

さるゝに地は来しとて何なるも来しとて

さるゝに地は来しとて何なるも来しとて

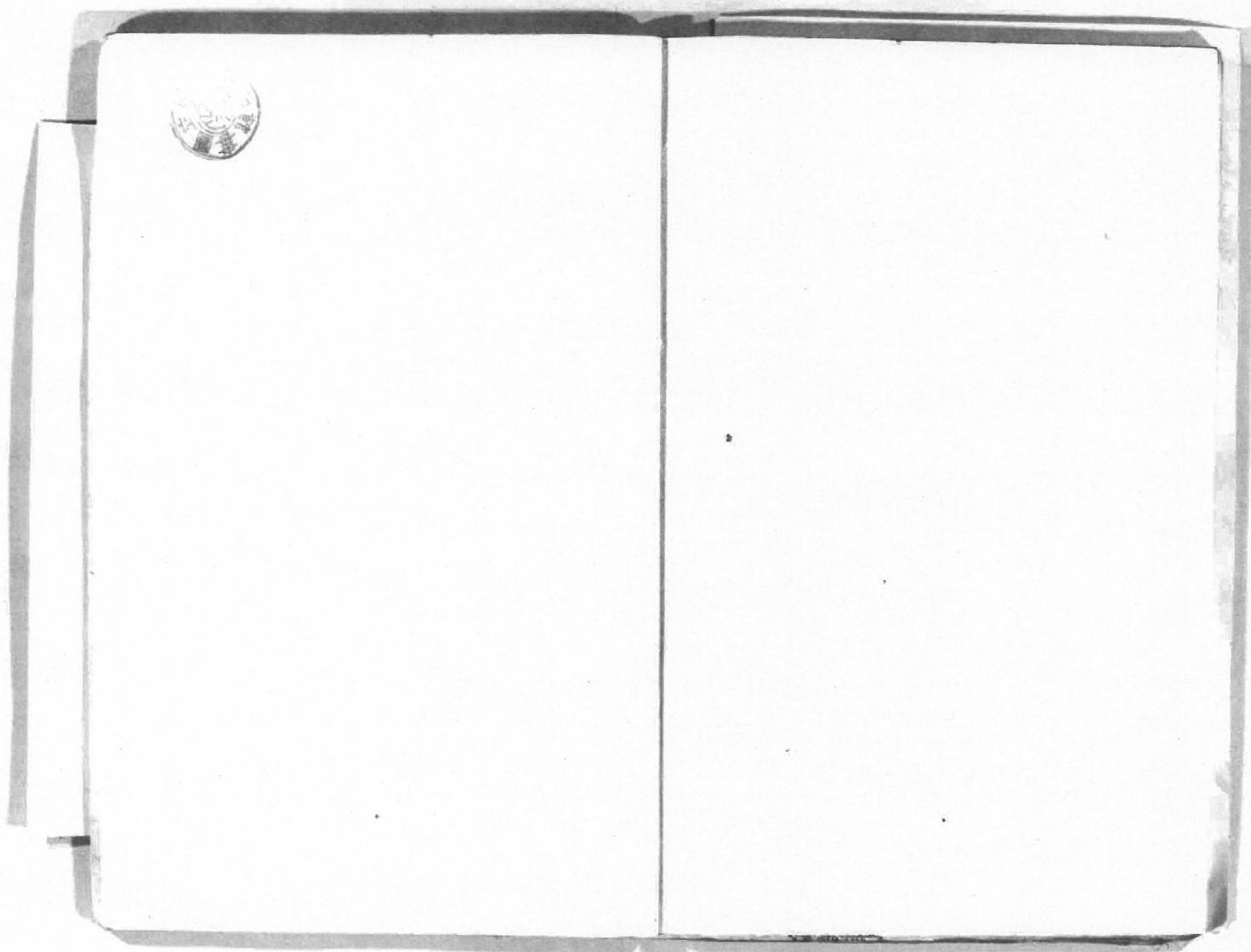
あはれに
地は来し



0212

御坊村文書 文書番号 054

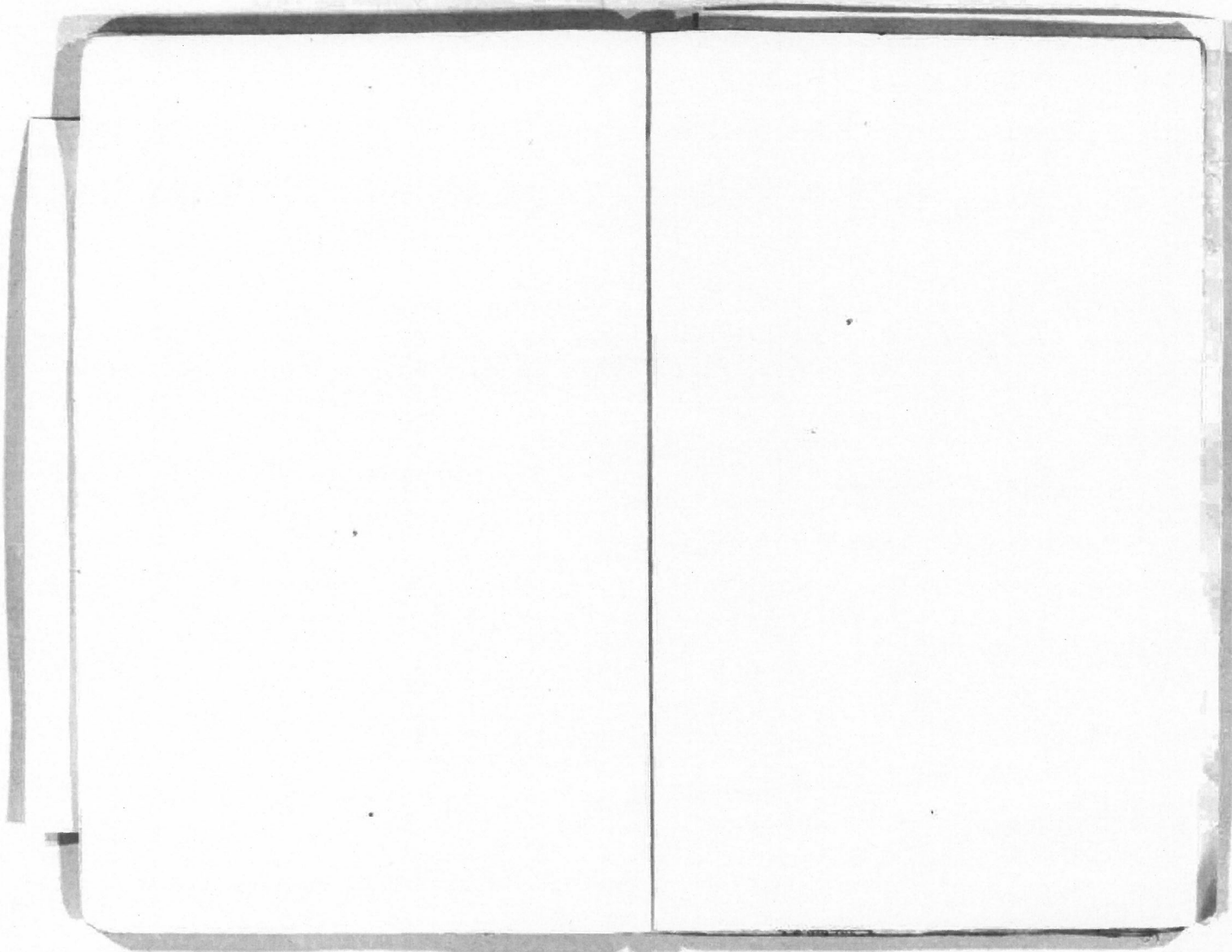
97 98 99 28^m 21 以下 10 丁白紙 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23



0213

御坊村文書 文書番号 054

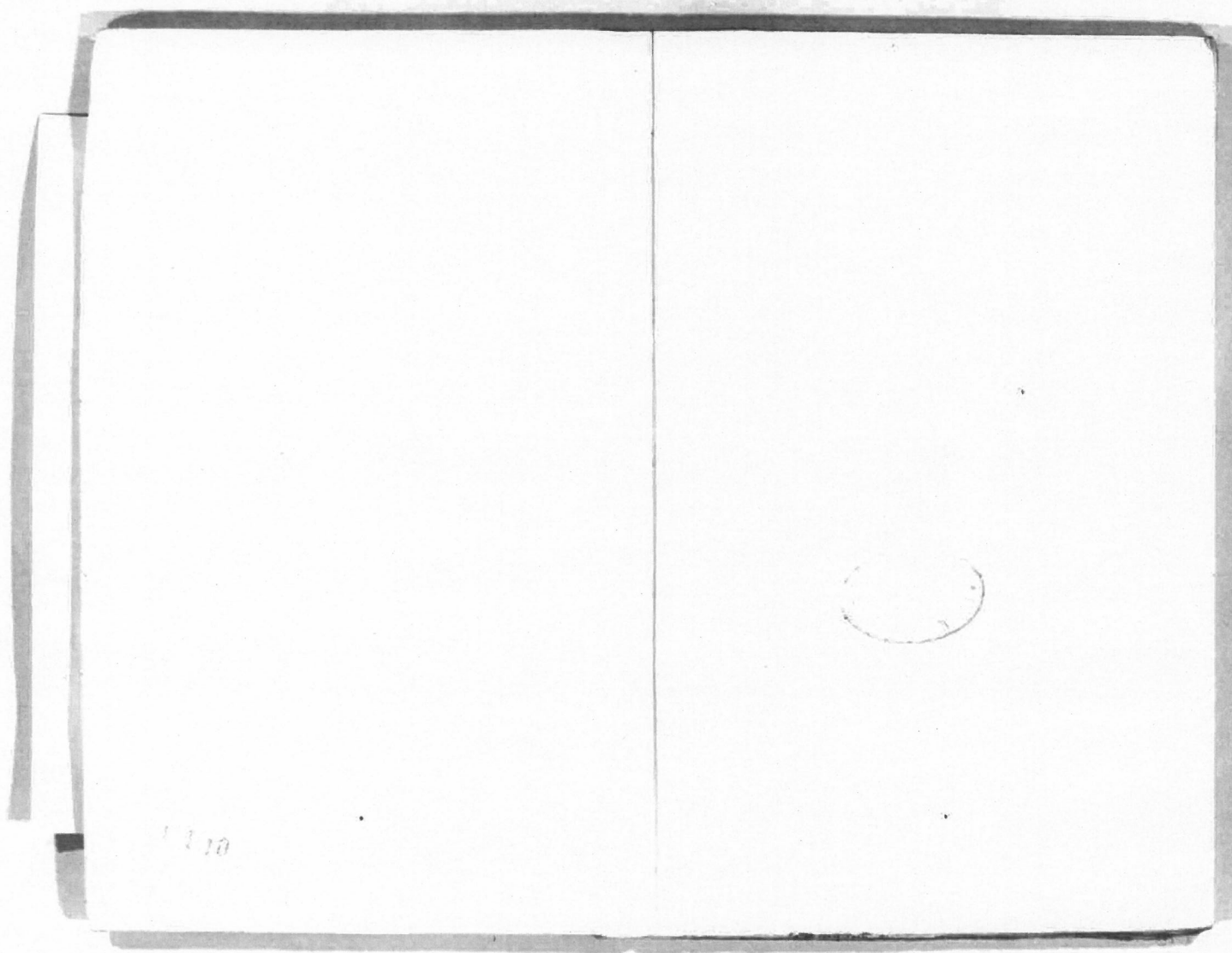




0214

御坊村文書 文書番号 054

97 98 99 28 21 3 以下 5 丁白紙 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23

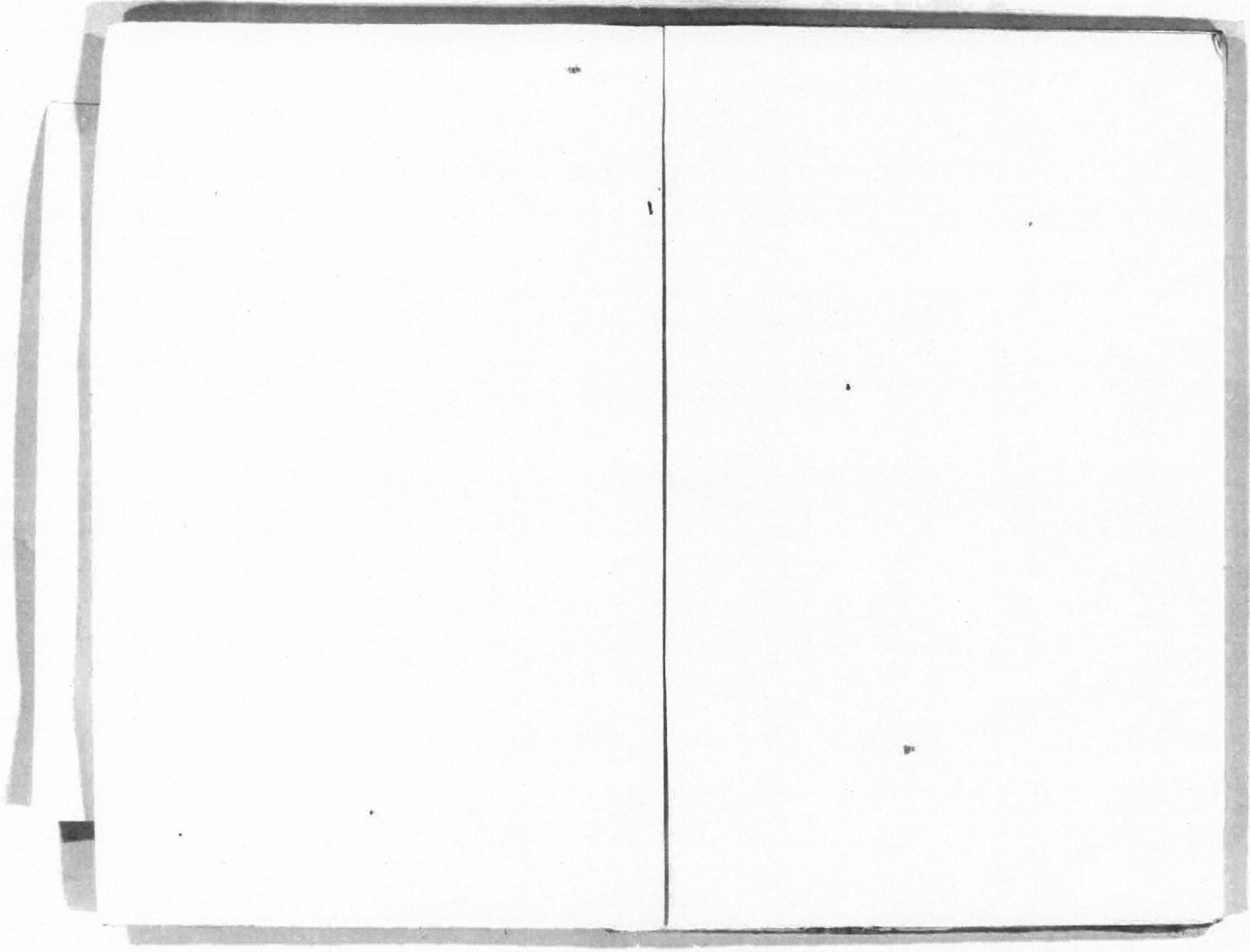


0215

御坊村文書 文書号

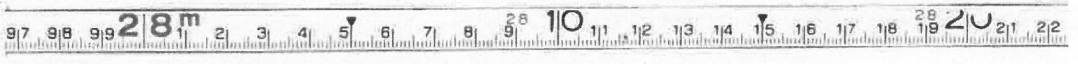
054





0216

御坊村文書 文書番号 054

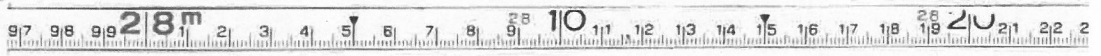


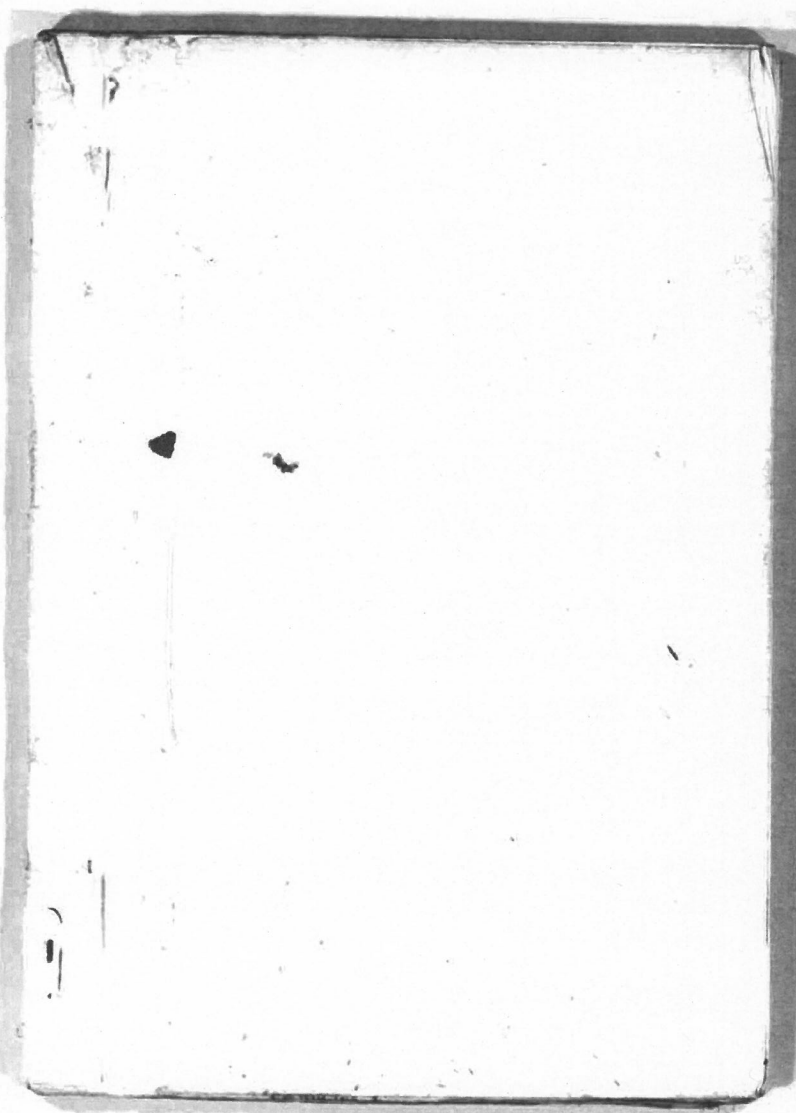
C88.C1
61
32

14777

0217

御坊村文書 文書番号 054





0218

御坊村文書

文書
番号

054

